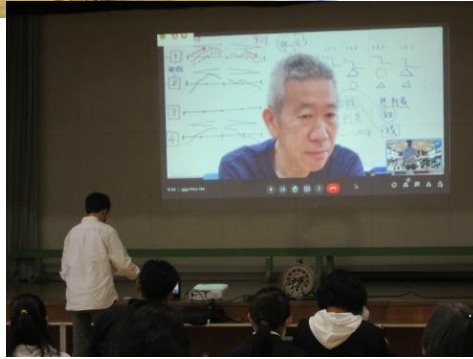


音楽教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	豊かな感性に ときめく心を ～互いに学び合い、高め合う多様な学習活動の在り方～	
日時	令和 4年 6月 24日(金)	
会場	北広島市立北の台小学校	
講師	高倉 弘光氏 (肩書:)筑波大学附属小学校 教諭	
参加者	約35名	
研修会 の 様子	 写真貼付	公開授業は、北の台小学校の4年生を対象にしたリモート授業となりました。「曲に合った歌い方」から、「歌唱の学習において、3つの資質・能力を育てる授業のあり方」を考える1時間となりました。 本時の目標は、「『とんぴ』の特徴を楽譜から捉え、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと」でした。授業は、「おちゃらかほい」で始まり、あっという間に楽しくリラックスした雰囲気ができあがりました。その中でも、高倉先生は、「耳で音を聞くことが大切だよ。」と声をかけ、音の大きさや速さを変えてピアノ伴奏を弾いていきました。その音に合わせて、表現の仕方を自然に変化させる子ども達の姿から、集中して音を聞いていることが分かりました。
		次に、「とんぴ」の楽譜から読み取れることを考え、交流しました。楽譜が4段でできていることを確認し、「それぞれの段を見て気づくこと」を真剣に考える子ども達。歌詞や旋律が似ているところや違うところ、強弱記号に気づき、積極的に発表することができました。子ども達の様子や反応を見て、「ここは間違ってもいいところだよ。」「言ってみようと思ったら手を挙げよう。」などの意欲を高める高倉先生の声かけが印象的でした。
		最後に、なぜクレシェンドやデクレシェンドがついているのか理由を考えました。子ども達は、高倉先生との対話の中で、歌詞の内容や旋律の上行、下行から考えるとよいことに気づきました。一人ひとりの考えを受け入れる姿勢、「予想を立てるのって楽しいよね。」という言葉から、子ども達が安心して発言できる雰囲気ができ、ここでもたくさんの意見が出されました。また、「どうしてそう思ったの。」と理由を考えさせることで、考えを広げたり深めたりしていることが分かりました。実際に歌ってみて、自分の予想がどうなのかを確認することもできました。次時の学習は、「強弱記号がついていない三段目をどう歌うか」を考えることとなりましたが、本時の学習が次の学習に、必ず繋がるのが予想できました。そして、知識を共有し、みんなで表現の工夫を考える時間が、歌う技能に結びつくことを実感しました。



事後研修では、「音楽という教科で大切なことは、知識や技能を得たり、意識したりしながら、どのような思いを持って歌うかを考えられる子どもを育てること」というお話がありました。そこを目指した高倉先生のたくさんの実践から、それぞれの学年、教材での積み重ねが必要であることが伝わってきました。

「聴くことを大事にできる子どもにするためには」という質問には、「春の海」の鑑賞の仕方を参加者で体験しようということになりました。「琴だけで演奏しているところで立つ」という教師の一言、聴かせるための仕掛けで聴く意欲が一変することが分かりました。

思考力・判断力の評価については、児童が自分の考えをもって、その考えの根拠が言えるかどうかが大変なポイントというお話もありました。

今回の研修は、音楽という教科でどんな子ども達を育てていきたいのかをあらためて考える機会となりました。そして、音楽部会のテーマ「豊かな感性にときめく心を」に込められた思いに近づける実践を積み重ねていきたいという意欲をもつことができました。